

実戦力を高める効果的な問題演習法

1. 問題演習の意義①

- ・「本試験問題を解くこと」つまり「合格すること」に直結する訓練
- ・覚えておくべき必要な知識の選別→何となく覚えているという状態の解消

2. 過去問集選び

①受験指導校の講座を受講している方

→講座で提供されるものを徹底的に利用する

②独学の方

→ある程度分量の多いものを選ぶ

→（できれば）使用するテキストとペアになっているものが良い（テキストの体系・配列と同じように過去問を編集してあるものの方が学習効率が良くなる）

→学習上の便宜に対する配慮はされているか？（ex.各問題について重要度のランク付けがあるか？解説は読みやすい内容か？）

3. 過去問集の使い方・問題演習法

①同じことを繰り返す

- ・同じ過去問集を徹底的にほぼ全部やり抜く
 - ・同じ過去問集を根気強く何周も繰り返す
- 「最低3回以上」繰り返す（「過去問集は何度も解くもの」という意識が大事）

②段階を意識する

過去問1周目

→解答時間、あるいは、正解できるか？を強く意識する必要はない

→何が出題されているか？テキストで見た知識がどのような形で問われるか？を確認

→過去問1周目は、テキストの補助教材と位置付けても良い

→テキストとの照合作業も効果的

過去問2周目

→（可能であれば）過去問1周目を終えた後ですぐに取り掛かる（任意）

→正解していたかの確認＋正解を導くための過程も確認

→1周目でよくわからなかった問題の理解に努める

過去問3周目以降

→時間的な間隔を空けて取り組む

→直前期の確認用に利用（後述「6. 問題演習の意義②」参照）

③作業をプラスする

解きっぱなし…は効果半減→次に見直すときに使いやすくなっているかを意識する

具体的な作業

- 最初は鉛筆・シャープペンシル等使用して、強く書き込まない
- 各問題に自分独自のランク付けをしてみる
(ex.「A＝自信持って正誤判断ができたから復習は不要」、「B＝正解はできたが自信もって正誤判断できなかった、または解答過程（考え方）を間違えていたから要復習」、「C＝不正解のため要復習」)
- （できれば）問題を解くのに必要なポイントを軽くメモする
- （できれば）比較問題等は自分で比較の図表を作ってみる
- （できれば）問われている知識をメモに殴り書きしてみる
- 必要と思う情報はテキストの余白に書き込む
- 間違いノートの作成は自己判断／過去問集自体をサブテキスト的に活用するのもあり

4. 過去問集以外の問題集について

①選び方

TACを受講している方

- 答練やアドバンスがあるからそれを利用する

独学者で全くの初心者の方

- 最近の過去問について太刀打ちできないと感じる場合は、薄め・易しめの市販の問題集等を入手して、過去問学習の前に取り組んでみるのもあり

独学者で勉強はある程度進んでいる・過去問集を難しすぎると感じない方

- ある程度、それなりの分量があるもの（各科目のテーマごとの問題が網羅的に掲載されているものを選ぶ）

②使い方

前記「3. 過去問集の使い方…」とほぼ同じ

ただし、本試験問題そのものではないから、言葉の使い方や微妙な表現方法が気になってもあまり気にしすぎない（言葉・用語の使い方については、過去問集で慣れておく方が良い）

5. 過去問プラスアルファの取組み

- ・前記、「過去問集以外の問題集」を使うことで対応
- ・受験指導校のオプション講座・答練・模試等の活用（費用負担少ないから、自分で不安に感じるところに関係する講座だけ受講すると良い）
- ・正確に知識を身に付け、それをもとに頭の中で組立てをしてから正解を導く意識を持つ

6. 問題演習の意義②

- ・過去問集は少し間を空けて、忘れてきたかな…という時点でもう一度取り組む
- ・今までのプラスアルファの学習をしてきた後で感覚を本試験問題に慣らしていく・戻していく
- ・「確認」・「知識の定着」・「瞬発力を鍛える」
 - 今まで身に着けてきた知識に間違いはないか？正確に覚えているか？テキスト等何も見ないで知識を取り出せるか？迷わないで正解を導けるか？を確認し、ひたすら知識を頭の中に書き込んでいく
 - 瞬発力を鍛える
 - 本試験における解答時間の短縮につなげる

7 締めくくりとして…

合格のために、
本気出して、
全力で取り組んで、
諦めず弱気になりすぎず、
それをしていくこと